

VOL. 140

日本 能登半島地震被災者支援
ADRA Japanスタッフが
活動地で感じた6月の色
モンゴル モンゴルの未来を育む、
ふわふわ羊と温室野菜
エチオピア 南スーダン難民と
エチオピア地域住民の
共生を目指して

世界がわかる。ADRAがわかる。

ADRA

EST.1985 2024

News 6



緊急支援から
生活再建支援へ。



続く能登半島での
復興活動

上：工具を用い、壊れた場の撤去作業をする技術者

下：震災から約5か月。仮設住宅に入居が始まった方々に家電製品を届け、生活再建を支えている（石川縣穴水町にて）

ADRA Japan 事業マップ

ADRAは、世界120か国に支部がある世界最大規模の国際NGOです。人種、宗教、政治の区別なく、一人ひとりに寄り添って活動しています。ADRA Japanの現在の活動地は、こちらの地図の通りです。写真をクリックまたはQRから、各活動の説明をご覧ください。



各活動の説明はこちら

<https://x.gd/ZynM0>



ご紹介している事業は皆さまからのご寄付のほか、以下の機関・団体から助成や支援を受けて実施しています（以下敬称略）。

- 日本NPO認定助成金協力（エチオピア、ジンバブエ、ネパール）
- 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム（アフガニスタン、イエメン、ウクライナ、モルモル、日本（能登半島地震被災者支援））
- 公益財団法人 農村協賛会（エチオピア）

Europe



Central and South America



Africa



Middle East



Asia



ADRA JAPANの活動

緊急支援から生活再建支援へ。 続く能登半島での復興活動

2024年1月1日16時10分、石川県能登半島を震源とする最大震度7の地震が発生しました。それによって大津波警報が発令され、津波を観測。火災、家屋の倒壊、停電断水など、甚大な被害が生じました。死者245名、一部破損を含める住家被害は12万棟を超えています(消防庁 2024年5月21日時点)。

ADRA Japanは、発災直後から情報収集を開始し、現在も石川県にスタッフを置いて、複数の方面から復興への道のりを支えています。



壊れた壁の撤去などは、専門的な技術が必要になる

片付け・応急処置のお手伝い

穴水町では災害ボランティアセンターが置かれましたが、一般のボランティアさんでは対応できない案件があります。例えば、崩れかけたブロック塀の撤去、屋根のブルーシート張りなどです。それらには業者さんや専門的な知識と技術を持った方の力が必要で

す。しかし、激甚な被害に対して対応できる業者さんは限られます。そこで、穴水町災害ボランティアセンターや支援に入っている団体と連携し、専門性が必要な案件に応じられる団体や個人の受入れと調整を行っています。



新しい電子レンジで調理する女性

家電支援

3月からは、仮設住宅等に入居される方々を対象とした家電支援も始まりました。石川県からは冷蔵庫、洗濯機、テレビの3点が支給されることになったため、ADRAは、それ以外の家電12品目のリストを作り、世帯ごと

の希望を確認しながら3~4点をお渡しし、人々の生活再建を支えています。配達日を連絡すると、「持ってたんですよー。ありがとうございます。これでご飯が炊けるもんねり」という明るい声も聞かれました。

避難所への物資支援

七尾市内の避難所を回り、必要とされている食料や物資を届けました。避難所となっている小学校では、雪解け水の影響を受けたグラウンドのぬかるみ対策のために、地面に敷くゴムシートを届け、車がスタックせずスムーズ

に出入りできるようになりました。加賀市の2次避難所に避難されていた乳幼児を含むご家族世帯に対しても、現地のNPOを通して離乳食や寝具等を届け、大変喜んでいただきました。



ぬかるんだグラウンドをゴムシートで整備

足湯・移動カフェ

災害対応バス「ゆあしす号」を使用した移動カフェと足湯を提供しています。不便な生活が続く中、移動カフェで好きな飲み物を選び、足湯でゆったりとした時間を過ごしていただくことで、なかなかリラックスできない心と体を休ませることができます。

足湯や移動カフェに来られた方の声をご紹介します。

「自宅にはもう住めない。一昨日まで車中泊していたけど、やっぱり寒いからこっちに来た。ずっと廊下で寝ている。昨日業者の人が家に来てくれたんだけど、4月に壊すの。どうしたらいいのかわからん。ここ追い出されたら、住むところがない。お父さんは何とかなるっていうけど、何もやる気が起きん。心がおれちゃって」(女性・70代)

「これは誰でもできるの？ 足がむくんでいるからしてもらおうか。母親が91歳で介護をしなければいけない。



足湯は被災者の方にとってホッとできる時間になる

洗髪用温水シャワー

長期間の断水が続く中、ボランティア団体「きざし」との共同プロジェクトとして、洗髪用の温水シャワーを備えました。1月21日、テントを立て、ボイラーやタンクを設置すると、当日だけでも30の方がいらしゃり、「頭を洗えてうれしかった！ ありがと



足湯は被災者の方にとってホッとできる時間になる

和室に入ったけれど、床ずれとか栄養が悪いから、ショートステイに行ったりしてる。行けるところがあつてよかった。さもちいいわー。リラックスして眠くなったよ。足が楽になって気分爽快」(男性・60代)

いらっしゃる方の過ごし方は様々です。ボランティアさんとたくさん会話をされて帰られる方、住民同士で近況報告をし合う方、目を瞑りながら静かに足湯を受ける方、温かい飲み物を飲んで涙を流される方など。

ある避難所で移動カフェをした際には、在宅避難をしている方々もいらして下さり「温かい飲み物を久しぶりに飲みました。良い香りがするんですね」[近所の人もどうしているか気になっていただけ、なかなか顔を合わせる機会がなかったから嬉しい]という声を耳にしました。

移動カフェと足湯は60人のボランティアさんと共に活動し、2024年4月までに延べ2,258人の方にご利用いただいています。



頭だけでも洗えたらさっぱりする。多くの方に喜ばれた

ね」というお声がありました。その日から5月22日までに延べ約500の方が利用していただきました。

炊き出し

避難所に避難されている方々やご自宅で避難生活を送られている方々を対象に、Red Farm Christian Healthのご協力により、約450食を提供しました。この活動には28人のボランティアの皆さんが参加してくださっています。



炊き出しには多くの住民が参加

担当者の声

発災から半年が経過しました。今でも、断水が続いている世帯があり、片付けが終わっていないお宅、復旧しきっていない道路など、さまざまな形で地震の爪痕が色濃く残っています。被災された方の中には、疲れが溜まってしまい限界にきている方もたくさんいらっしゃいます。現地では、まだまだボランティアや寄付といった形での支援が必要です。日本各地で台風や集中豪雨など水害が多く発生する6月となり、支援の手が分散してしまう恐れも出てきています。ですが、ADRA Japanは引き続き、必要な所に必要な助けを届けられるよう、現地の住民に寄り添い活動していきます。(三牧)

国内緊急支援募金のお話し

能登半島地震被災者支援に多くのご寄付をお寄せいただき、大変感謝いたします。地震とともに始まった2024年もまもなく折り返しですが、梅雨、台風の季節がやってきます。緊急の際に駆け付けることができるよう、支えの力となっていただけますと幸いです。

<https://x.gd/0GgJ6>



ADRA Japanスタッフが活動地で感じた6月の色

「June Bride (ジュンブライド)」という言葉は、「6月の花嫁/結婚」を意味します。古くからヨーロッパでは、Juneに結婚すると幸せになれると言われられてきました。

ADRAは、世界中の人々が少しでも幸福を感じられることを祈りながら活動していますが、今回、何名かのスタッフに「自身の持ち場の6月のイメージ」を色で語ってもらいました。

最近、ネパールから帰国したスタッフは振り返ります。

「ネパールは四季ならぬ六季に分かれており、6月は雨期にあたります。突然のスコールも1日に数回あります。河川の水が増加し、毎日のようにゴミの混じった茶色い水が流れるんです。だから色に例えるなら、湿った土色ですね。そんななかで泥んこになりながら、田植えを楽しんでますね」

ジンバブエに赴任していた職員も言いました。

「黄土色かな。土の色です。冬であり、乾季です。場所によっては砂漠になったんじゃないかと思うほど、川が干上がってしまいます。平均最高気温が21℃、最低で9℃。当初は、こんなにも青々とした草木が無くなってしまったと驚きました。雨、つまり水を待ち望む、耐え忍ぶ時期ですね。ゼロではありませんが、極端に雨が減ってしまうんです」

アフガニスタン担当者も話しました。

「国のほぼ中央にあるパーミヤンで、舗装されていない道の端に紫や黄色の小さな花が咲いていた光景を思い出します。当地では6月になると緑が始めます。温かくなってきたなという季節ですね。冬はマイナス20℃以下になる国ですから。

イメージは茶色です。離陸時、着陸時に飛行機から見ても、土と埃の茶色が目に飛び込んできます。避難勧告地域のため、もう10年も訪れていませ

んが……」

私たちが選んだ色を、セラピストの田林綱紀さんに解説してもらいました。「ネパールの土色は重苦しさが漂うようなものではなく、どこか落ち着きを感じる心地よさと安心感、温かみがある暖色の赤の混ざった赤黒さが見えているように思います。ジンバブエの黄土色は、彩度が薄く、ある種の虚無感を感じているのかもしれませんが、肩肘張らずに、息をゆっくり長く吐くように気持ちを休ませ、意欲を未来に繋げることができると思いますね。」

一方、アフガニスタンでは植物が芽吹き色付き始める時期ですね。茶色のイメージを抱くとしても、明るい赤を含むような高い明度や彩度を含み、力が満ち溢れる感覚を味わうような印象を受けます」

色には心模様が表れます。皆さまの6月はどんな色ですか？



上：ネパールの田植え風景 右上：干上がった川の底を掘って飲み水を得るジンバブエの少女 右下：ADRA Japanのスタッフがアフガニスタンを訪れることができなくなって早、10年…

世界のADRAから

約120か国と地域に支部を持つADRAは、世界各地で活動しています。数ある活動の中から、一部をご紹介します。

MONGOLIA モンゴル

モンゴルの未来を育む、ふわふわ羊と温室野菜

モンゴルは、国土の砂漠化や慢性的な食料不足が深刻です。草原に負荷がかかるほど増えすぎてしまった羊の数を減らし、手に入れられる食料を増やすために、ADRAは地域の方々と共に、良質の毛が多く採れる羊への移行と、太陽熱を利用した野菜の温室栽培に取り組みます。自然を相手にした活動であるため、短期間では成果をだせません。しかし、3年後、5年後、10年後を見据えて、今から時間をかけて取り組む必要があります。モンゴルの方々を持続可能な生活を取り戻せるよう、皆さまの応援をお願いいたします。



温室栽培により、気候に左右されずに、収穫量を確保できる

モンゴルの詳しい活動情報はこちら

<https://x.gd/paD9u>



ETHIOPIA エチオピア

南スーダン難民とエチオピア地域住民の共生を目指して

エチオピア・ガンベラ州に南スーダン難民キャンプが開設されてから9年が経過しました。帰還が進まない中、国際支援は減り、難民の方々の食料難は深刻です。また難民を受け入れている地域の住民も、雨不足や洪水、害虫の発生による農作物の被害に苦しんでいます。双方の生活苦は両者間の小競り合いにつながってしまう可能性をはらんでいるため、見過ごせない課題です。ADRAは人々が共に暮らしやすい環境をつくるべく、2024年3月より肥沃な土地を生かした農業支援や平和的共存の促進に取り組んでいます。



この乾れた地が畑によりがえる

エチオピアでの詳しい活動情報はこちら

<https://x.gd/lnNYf>



アドラのチカラ

ADRA Japanを
支えてくださる方へ
ご紹介します！



マール・エスコットさん
(メキシコ/チャリティランナー/
コルゲート・パーモリブ勤務)

— ADRA Japanを知ったきっかけ
一般ランナーとして、東京マラソン2024に出場しようと思い、オフィシャルサイトで見つけました。

— ADRA Japanとの関わりについて
東京マラソン2024チャリティの私の寄付が苦しみを抱えながら生きている人々に役立てられることを知り、「是非チャリティランナーとして走りたい!」と感じたのです。わずかな変化が、よりよい世界を築くという一歩にひかれました。それで申し込みました。

— ADRA Japanの魅力や関わってよかったことを教えてください

他国の人を支えることができる点が、とても素敵ですね。困っている人たちへの援助に私も加わらせて頂き、心から感謝しています。また、東京マラソン前夜のレセプションパーティーで、同じ志を持つベネズエラ、パナマ、インドネシア、台湾などのランナーと知り合えたことも喜びです。日本で出会ったそれぞれの方が、人間としての寛大さを見せてくれました。他者に対する思いやりに満ちた組織の一員として、東京の街を走れたことを、光栄に思います。

— ADRA Japanへのメッセージをお願いします

私たちランナーに、素晴らしいイベントに参加する機会を与えてくれ、なおかつ困難に直面している人々のために活動している……そういった、すべての努力に感謝します。本当に、勇気を与えられました。ありがとうございます！

東京マラソンチャリティにかけるそれぞれの思い

3月3日、東京マラソン2024が開催され、3万6965人のランナーが、思い思いに都内を駆け抜けました。ADRA Japanも東京マラソン2024チャリティに初めて寄付先団体として加わり、アメリカ、ブラジル、台湾など世界各地から29名のランナーが迎えることができました。世界120か国に支部を持つADRAですが、東京マラソン2024チャリティを通じて、「自分が走ることで苦しんでいる人たちの役に立つなら」「世界中の様々な問題を見つめ、人間としてできることをしなければ」「発展途上国の教育支援に加わりたい」などの思いをもつ新

たな仲間に出会ったことを感謝いたします。ADRA Japanは東京マラソン2025チャリティも寄付先団体の一つとして、6月下旬よりチャリティランナーの募集を開始いたします。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



完走した証のメダルと共に

ひまわりプロジェクトへのご参加に感謝！

ウクライナ人道支援の必要性が高まってから2年が過ぎました。メディアの関心が薄れていくことを感じる中、ADRA Japanでは2月21日から3月29日にかけて寄付をしてくださった方にひまわりの種を送る「～みんなで咲かそう10,000本～ADRAひまわりプロジェクト」を実施しました。その結果、485名の方からお申し込みがあり、770万円以上のご寄付が集まりました。期間中には、「小学生の娘と寄付したいと思います。懐くのではなく、一緒にひまわりと希望を届けられたらと思います」「応援しています！遠い異国の地であっても、空は繋がってい

ます。あなたは1人ではありませんよ」など、温かいメッセージも多く寄せられました。たくさんの方々が咲く夏に向け、寄り添った支援を届ける活動ができますことを、心より感謝申し上げます。



ひまわりの種を届けた参加者のSNS投稿

応援メッセージ

台湾地震被災者支援にご寄付いただいた方より、ADRAと台湾の皆さまへの応援メッセージをいただきました！

東日本大震災時に石巻地方に住んでいました。津波で家は大規模半壊。職場も大きな被害にありました。当時中学生の息子とも連絡が取れずただただ不安でした。今は息子も東京で働いていますので何らかの気持ちを送りなさいと言っております。あの時の台湾の方々のご恩は一生忘れません。遅くなりましたが是非とも寄附させてください。(宮城県 男性 M.I様)

以前タロコへ旅行に行きました。美しい景色と温かい人々にとっていち早くいつも通りの生活、景観になることを願っています。(東京都 女性 M.K様)

4年前1人で台湾に行った際には、皆さんが暖かく迎えてくださいました。どうか皆さんが無事でありますように。いつも日本を助けてくれてありがとう！少しでも力になれますように。(千葉県 男性 K.T様)

ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行っています。

ホームページ：<https://www.adrajpn.org/>



ADRA News 140号 2024年6月1日発行

発行人 青木 泰樹
発行 特定非営利活動法人 ADRA Japan (アドラ・ジャパン)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
TEL: 03-5410-0045, FAX: 03-5474-2042
E-mail: support_adra@adrajpn.org
Facebook: adrajapan X(Twitter): ADRA_japan
Instagram: adra_japan LINE: <https://lin.ee/sbm2jFM>

団体概要

法人名 特定非営利活動法人 ADRA Japan
所在地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
(JR原宿駅徒歩5分、東京メトロ明治神宮前(原宿)駅徒歩2分)
代表者 柴田 俊生(理事長)
事務総責任者 青木 泰樹(常務理事/事務局長)
創立年月日 1995年3月30日

Justice,
Compassion,
Love



ADRA